

提案
学校給食費

都の全額補助で 無償化を

学校給食費の無償化について「国の責任」だと言い続けてきた小池知事。都民運動と論戦、共闘による条例提案によって、重たい扉をこじ開け、都が補助に踏み出したことは重要です。23区は全自治体が全員無償ですが、都の補助が2分の1であるために、財政力の弱い多摩地域では、全員無償は半数以下に。新たな「多摩格差」となっています。



提案
補聴器支援

補助拡大で 全自治体実施を

日本共産党都議団がくり返し求める中で、都の新しい補聴器購入費補助制度が始まりました。23区はすべてで制度がスタートします。都の計画では、2026年度に都内100%の自治体で補聴器支給助成等を行うとしており、都としてさらなる後押しが必要です。

提案
ケア労働者

さらに、児童福祉 職員への支援を

誰もがケアを受けて生きており、ともにケアすることで社会は成り立っています。ケア労働は質的に高い水準が求められ、その仕事に見合った賃金であるべきです。新年度予算では、高齢者介護や障害福祉の労働者に、月額1~2万円の支援が実現しました。

提案
移動の保障

シルバーパス無料化 子ども一律50円

都営地下鉄
通学定期は半額に、体験格差を解消する

手薄な高齢者福祉を手厚いものにすることが必要です。現在の子どもの交通費は、80年前の規程に基づくものとなっており、時代遅れです。

都政を希望に変える

日本共産党都議団19人
都民の声と運動と力を合わせて

JCP TOKYO
Metropolitan Assembly Members
共産党都議団

小池知事の予算

反対は7会派42人。賛成は自民、都ファ、公明の3会派のみ

3分の1超が反対

▼暮らしに無関心、▼都民の声を聞かない、
▼経済界ファーストというのが小池都政の特徴です。高齢者施策は極めて手薄、中小企業に冷たく、住民が反対する大型道路建設を進め、経済界が求める「人材育成」「稼ぐ東京」に大きく偏重しています。2024年度予算には、7会派42人が反対。矛盾が広がっています。

所得の再分配という税本来の機能を発揮して、一国に匹敵する予算を、都民の暮らし・福祉を守り、貧困をなくし格差を是正するために使うなら、巨大な可能性がひらかれます。

わずか3.8%の組み替えで
巨大な可能性ひらかれる

共産党都議団の予算組み替え提案→
その一部を裏面で紹介

日本共産党都議会議員(文京区)
福手ゆう子

日本共産党都議団報告 2024年5月号

ご意見・ご要望をお寄せください
電話 03(5320)7270 FAX 03(5388)1790 〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1

小池都政の大問題MAPは次ページへ

共産党都議団

都政の大転換が
必要です

小池知事が「脱炭素の切り札」とする水素事業は、化石燃料由来のグレー水素が前提です。あらゆる分野で水素を活用する間違った方針により、需要も必要性もない分野に巨額の税金が投入されようとしています。水素偏重はだに改め、省エネ・再エネの普及に本気で取り組むべきです。

日航機と海保機の衝突事故は、都と国が進める羽田新ルート導入などによる過密化が背景にあることは否定できません。都は2012年度から毎年、国に成り代わって空港容量の拡大などの調査を行い、後押ししてきたことが明らかになりました。羽田新ルートは中止すべきです。